

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多賀城市児童発達支援センター太陽の家		
○保護者評価実施期間	令和7年1月7日 ～ 令和7年1月24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 2 2 名	(回答者数) 2 1 名	
○従業者評価実施期間	令和6年11月15日 ～ 令和6年11月25日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 1 5 名	(回答者数) 1 5 名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月11日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや 意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	週5日利用可能、少人数のクラス配置で児童に合わせた対応を行っている。	一人ひとりに、必要な支援ができるよう活動内容を検討し取り入れている。継続して通える体制を整えることにより学びを積み重ねることができる。視覚支援をうまく活用しながら自分で取り組めるよう進めている。	より多くの活動を提供し、様々な体験をすることで、充実した時間を過ごせるようにしていく。
2	保護者の皆様に来所してもらう機会を多く取り入れている。	ご家族との連携を大切に、面談、参観、療育への参加など、保護者のご協力をいただき児童の様子を共有する機会を得るようにしている。	保護者の皆様が来所の際にはいつでも児童の様子を見学し、さらに共有できる機会を持てるよう促していく。
3	専門職（心理士、言語聴覚士、作業療法士）を配置し専門的な支援を行っている。	専門的なアドバイスのもと、活動内容を検討し、対応方法等についても一緒に考える時間を作っている。また、検査や面談等を通して専門的な立場から保護者へのアドバイスも行っている。	クラス支援等での専門職からのアドバイスを担任が共有し支援に活かしていく。さらには保護者とも共有しながらご家庭での関わりにもつなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	少人数での療育を経て次のステップ（幼稚園・保育園）への移行を検討する際、保護者様の不安解消へのアプローチがさらに必要。	少人数に対し職員数も十分に配置している現状から幼稚園や保育園等、大きな集団への移行に不安を感じ移行を躊躇する保護者がいる。児童にとって必要な新たな生活環境と、対応方法の説明をもっと丁寧に伝えることが必要。	保護者様が不安な点を細かく確認し、対応方法を検討する。また、移行先との情報共有も行うこと、センターへいつでも相談できること、また保育所等訪問支援事業など、今後もサービス利用が可能なこと等の説明を行い不安を解消できるようにする。
2			
3			